

くじゅう黒岳地域の 水生動物



平連橋上流の早瀬
調査点の中でもっとも多種類の
水生動物を採集できました。



ヒゲナガカワトビケラの幼虫



カゲロウ類

トンボ類

カワゲラ類

トビケラ類

平連橋上・下流で採集した水生動物



男池下流の早瀬

大分川の支流阿蘇野川の源流域と、さらに、その支流鍋谷川とで主として水生昆虫と魚類を中心に採集しました。

この地域から 58 種の水生動物を採集できました。大半は水生昆虫でカゲロウ類 13 種、カワゲラ類・トビケラ類各 10 種、鞘翅類 4 種、これ以外の昆虫類を合わせて 10 種、その他甲殻類、魚類、両生類など 11 種となっています。期待したほどの動物相ではありませんでした。

阿蘇野川では ヒゲナガカワトビケラが優占種

平連橋上・下流で清冽水域の指標種ヒゲナガカワトビケラをもっとも多く採集できました。カワゲラ、カゲロウ、ナガレトビケラなども多かったので間違いなく清冽な水域といえます。



男池滝

水清ければ魚すまず...

男池わきから男池滝までは、撒き餌をするなど丁寧に投げ網をしたものの魚類は 1 匹も得られませんでしたし、水生昆虫など魚の餌になる水生動物も 5 種で個体数も貧弱です。黒岳は珍しく全

山が樹林でおおわれた山で、その北麓を流れる阿蘇野川には男池湧水（群）が大量に流入しているという特異な環境です。水温 13.5℃（8月30日）、澄んでいるが火山の影響で硫酸イオンの含有量が多いこと、川床が砂泥礫底で流動しやすく、小型の水生昆虫などの生活場所として、また、餌となる藻類が着生しにくいなどの不都合な条件が重なっています。

ヒキガエルの繁殖地を確認した

阿蘇野川源流域の黒岳橋下流には伏流部分が多く（5月）、水のある箇所のたまりに両生類のヒキガエルやヤマアカガエル、ニホンアカガエルの幼生を多数みることができました。ヒキガエルはもともと池、湿地、溝など止水水域で繁殖する種ですが、最近平地では開発などに伴い絶滅が相次ぎ、すみかは山地に後退しています。環境の指標種として貴重です。

カエルの幼生は、口の周りの歯列の数や並び方が種類の決め手となります。



ヒキガエル幼生
（オタマジャクシ）
の群れ
黒岳橋下流の
水たまり



ヒキガエル幼生の歯列



鍋谷川上重橋上流



上重橋下流で採集したヤマメ



阿蘇野川第2堂の下橋下流で採集したアマゴ

渓流魚のヤマメ、アマゴが生息している

鍋谷川でヤマメ、アマゴを、阿蘇野川ではアマゴを確認しました。両方ともサケ科の魚類で 10℃ 付近が適温の冷水性の魚です。同じ地点で、河川上流域に広く分布するタカハヤを多数みることができました。

鍋谷川では無機汚濁が認められた

上重橋上流に珪藻土の採石場があり、黄白色の濁水が流入し、およそ 2 km 下流の阿蘇野川合流点でも濁度に差が認められるほどでした。清流水域の指標種ヘビトンボが優占種でしたが、これは、やや汚れた水域まで生息できます。無機汚濁は造網型のヒゲナガカワトビケラには不得手であり生息していませんでした。



タカハヤ



ヘビトンボの幼虫
◎スケールは 10mm